

## 基本資料

### 目次

1. 2021年度理事長所信	2
2. 2021年度基本計画	5
3. 青年会議所（JC）とは	6
4. 2021年度理事及び監事	10
5. 2021年度組織図	11
6. 2021年度出向者一覧	12
7. 2021年度委員会事業方針・事業計画	13
8. 2021年度年間スケジュール表	24
9. 2021年度収支予算書	25
10. 2020年度をかえりみて	32
11. 2020年度収支決算	48
12. 2020年度監査報告書	60
13. 2020年度庶務報告	61
14. 事務局備品目録	62
15. 2020年度行事一覧	63
16. 新入会員のために	67



公益社団法人 五所川原青年会議所

2021年度 理事長 佐々木 篤 史

2021年度 LOM スローガン

自他共栄

## 公益社団法人五所川原青年会議所2021年度理事長所信

理事長 佐々木 篤 史

### 【はじめに】

1964年、五所川原青年会議所は254番目のLOMとして誕生し、先輩諸兄の英知と勇気、情熱によって私たちの住み暮らすこのまちの「明るい豊かな社会」の実現へ向かい運動して参りました。

そのような中、昨年、世界中で流行した新型コロナウイルスは私たちの住み暮らすこのまちにおいても見えない恐怖や不安をもたらし、五所川原立佞武多をはじめ様々なイベントの中止、学校の休校、マスク無しでは外出できないような日々と、何気なく暮らしていたいつもの日々がどれほど素晴らしいものだったかを考えることとなった一年でありました。

青年経済人である私たち青年会議所会員は、この新型コロナウイルスに恐れるだけでは何も前に進むことができません。今だからこそ長年培われてきた知識と経験、そして青年ならではの柔軟な考えと満ち溢れる情熱で、私たちの愛するこのまちが明るくなるよう運動を展開していかなければなりません。

### 【信頼ある組織運営と強靱な組織づくり】

長年に渡り、様々な青年会議所運動を行ってきている当会は、地域からの信頼をいただくことにより地域のために運動を展開することができています。この先輩諸兄から受け継がれてきた地域からの信頼を私たちは絶やすことなく、責任ある行動で運営を行わなければなりません。

その為に、総会を開催すると共に定例会を円滑に行い、当会の組織の基盤を固め、円滑な青年会議所運動が行えるように運営致します。また、公益法人として法令順守を的確に行い信頼ある組織の運営を行って参ります。更には、青年会議所会員としてのスキルアップを行い、組織全体の資質向上を目指します。

組織の確かな運営と組織全体の資質向上が行われることにより、今年度も地域へ信頼ある青年会議所運動を行うことができると確信致します。

### 【まちの幸せと未来を見つめるまちづくり】

昨年の新型コロナウイルスの渦中において日常生活の制限や営業の自粛、イベントの中止など、このまちにおいても多くの影響をもたらし、住み暮らす人々もまた、例年に比べどこか侘しさが漂う状況となりました。「明るい豊かな社会」を目指す私たちはこのような状況だからこそ立ち上り、まちを牽引する旗手としてこのまちに運動を展開していかなければなりません。

その為にも、私たちのまちが持つ「地域力」を活かし、参加した人たちがこの地域に住むことへの幸せを感じる事が出来る運動を展開して参ります。また、行政と連携し、住み暮らす人々が自分たちのまちについて考え、まちの未来へつなげる運動を展開して参ります。

まちに住み暮らす人々が幸せを感じ、未来へのビジョンを見つめることは、このまちと住み暮らす人々の明るい希望へつながることを確信致します。

### 【郷土を愛する心を持った青少年の育成】

地方の人口減少が進む日本。私たちの住み暮らすこのまちにおいてもこれは重要な課題であります。特に地域の宝である子供たちがこのまちから離れて行くことは大きな損失であり、課題解決の為に、子供達の「郷土を愛する心」を育てていくことが地域の明るい未来の実現を目指す団体、そして地域の大人としての責務と考えます。

そこで、私たちが培ってきた知識と経験を活かし、子供たち自身が郷土に触れ、郷土について考える機会を創出することにより、学校だけでは学ぶことのできない「郷土を愛する心」を育む事業を開催致します。

この事業の経験によって「郷土を愛する心」が芽生えることは地域の未来を守り、牽引する担い手の育成となり、地域への明るい未来をもたらすことを確信致します。

### 【未来を見据えたまつり】

地域の幸せを願う神事である「奥津軽虫と火まつり」。昨年は、新型コロナウイルスの影響で運行が叶わなかったものの、境内での神事は地域の幸せ・新型コロナウイルス収束への願いとしてとても意味のあることだったと考えます。この地域の幸せを願う想いを決して絶やすことなく、今年で49回目を迎える「奥津軽虫と火まつり」を開催し、私たちはこのまつりを伝承していかなければなりません。

その為にも未来を担う子供たちにまつりの意義を伝え、身近に感じていただく事業を開催し、末永く地域に愛されるまつりを構築致します。また、まつりの重要性を再認識し、これからも市民が親しめる地域のまつりとしてどのようなことが必要であるか考える事業を開催致します。

このまつりを本年も開催し、未来を見据えた運動を展開することで、節目である来年の50周年、そして次の世代へと地域に愛されるまつりとして伝承されていくことを確信致します。

### 【会員の友情を広げ地域の力となる】

青年会議所は、20歳から40歳までの青年により構成されており、若いながらも柔軟な発想と気概を持ってこの地域へ様々な変革を起こして参りました。そのような中で私たちは互いに友情を育み、それは一生涯のものとして卒業後も地域の経済や人のつながりに結びつき、「明るい豊かな社会」への一因となっています。私たちはこれからも多くの仲間と共にこの友情を育み、地域の発展につなげていかなければなりません。

その為にも、会員交流の機会を積極的に設け互いを知り、同じ時間を過ごすことで絆を深めて参ります。また、諸先輩とも交流を深め知識・経験を伝播して頂き私たちのスキルアップにつなげて参ります。更には、会全体が会員拡大の意識を持って新しい仲間を迎え、多様性を持った活発な運動の展開と継続的な会の運営につなげて参ります。

多くの仲間と交流し友情を育むことにより、その友情が地域創生の力となり、このまちの明るい豊かな社会につながることを確信致します。

【結びに】

私は2011年に青年会議所に入会して以降、現在の会員は勿論、諸先輩方、市民、行政、有識者、各地青年会議所の仲間等数多くの皆様と接し、沢山の学びを得ることができました。入会した当初は、特にまちについて考えたこともなく何気ない日々を送っていましたが、青年会議所で仲間と共に成長して行くにつれ、このまちを愛する心を持ち、少しでも自分がこのまちの明るい未来への幫助ができないかと考えるようになりました。そのような中、昨年新型コロナウイルスの猛威は私を含め会員全員がまちに対して行いたかった運動を展開したくてもできない悔しい思いをすることとなりました。

そのような思いで、今年は「自他共栄」をLOMスローガンに掲げさせていただきました。互いが互いを思いやり成長し、その成長が当会の成長となり、その成長がこのまちの「明るい豊かな社会」につながる。このような互いが成長する一連の流れを目標に行動することにより、コロナ禍にも負けない強靱な運動が展開されることを確信致します。その為にも、会員全員が自発的に考え行動し、互いに研鑽されていくことが大切だと考えます。

コロナ禍という状況においてこのまちにできること。それを考え、実現する力を五所川原青年会議所は持っています。今だからこそ、その力を会員全員が力を合わせ十二分に発揮し、私たちだからこそできる明るい未来へのまちづくりを目指し、会員と共に一丸となり一年間邁進して参ります。

## 基本計画

### 【基本理念】

あなたの一步は自身の未来となり  
みんなの一步は地域の未来となる。  
今こそ、その一步を踏みだそう！

### 【基本方針】

- 1、信頼ある組織運営と強靱な組織づくり
- 2、まちの幸せと未来を見つめるまちづくり
- 3、郷土を愛する心を持った青少年の育成
- 4、未来を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催
- 5、会員の友情を広げ地域の力となる

### 【LOM スローガン】

自他共栄

## 青年会議所（JC）とは

### ◇理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならないと考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所（JC - Junior Chamber）です。

「われわれ JAYCEE（青年会議所会員）は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

### ◇特 質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特質は、会員の“年齢制限”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満20歳から40歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長時間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満40歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のサロンクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

### ◇組 織

会員は自分が住んでいる都市にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

1949年9月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、70年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、704都市で活動を続け、会員約4万名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国697の青年会議所はそれぞれ集まって、47ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を10地区に分ける地区協議会に集められ、それらを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所（JCI - JUNIORCHAMBERINTERNATIONAL）に加盟し、国際的なJC運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約17万人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

## ◇事業目標 “社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動70年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所の日常活動の場を通じ、われわれ個人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中であって、市民を目標に向かつて一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。一市民でもある会員が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志より加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われまます。

青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていきます。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求め、その門戸を大きく開いています。

2,000字解説文より



## 国際年会議所 JayceeInternational, Inc. (JCI)

JCIは青年の世界でも最も強固で、大きな団体です。「すべての国、民族、宗教を含めた青年の集まり」それがJCIのモットーです。

1977年1月末日現在の構成は、100NOM (NationalOrganizationMembers)、約8,600LOM (LocalOrganizationMembers) があり、全会員数は約32万名です。

- ①個人の能力の開発
- ②青年の協力による社会開発（精神面、福祉面）
- ③より深い世界的相互理解の推進

これらの主目的に沿ったプログラムを調査－研究－計画－実行－評価の活動過程を通じて有益な指導力を取得し、また人間的向上を図る機会を活動の主体である青年が追求すると同時に世界に対して種々の働きかけて行うことがJCIの目的です。

JCI (JuniorChamberInternational) 運動の始まりは85年前の1915年にアメリカの一都市セントルイスに住む青年達が「青年も、事業あるいは市民生活の諸問題に関与すべきである。」との主旨のもとにUnitedStatesJuniorChamberofcommerceを設立しました。その後、清廉な言動が一都市から全米へ、更に世界各国に発生を促すことになり、続々青年団体が設立されました。

そして、1946年第一回国際青年会議所の会議がパナマで開かれ、国際的活動が開始されました。JCIは75カ国(NOM)、12,000チャプター(LOM)のJCが加入しており、会員数(Jaycee)は約320,000人に達し、同一目標をめざしております。日本は1951年、第6回会議で初めてJCIへの承認を受けてから、現在においてはアメリカに次いでJayceeの最も多い国へと拡大しました。JCIは結成以来、毎年1回加入国のいずれかでJCIの最高議決機関である世界会議が開催されており、日本に於いても1957年第12回会議が東京で、1966年には京都で第21回、1980年には大阪で第35回、1986年には名古屋で第41回、2000年には札幌で第55回世界会議がそれぞれ開催されました。皇太子殿下の御臨席を始め、各国の著名士が多数参加のもとに、世界各国からの代表団を日本に迎え、JCI世界会議の歴史の輝かしい多大な成果を残しました。また、JCIは世界会議の他に6地域に分けて、各地域ごとに毎年一団地域会議を開催しており、1952年東京で第2回アジア地域会議(1962年よりJCIの定款改正でJCIコンファレンスと改称)が開かれました。日本はJCI加入以来、毎年世界会議に多数の代表を送り、JCI発展に寄与している。JCI内部においても高く評価されており、日本から初めて、1970年度JCI会頭に前田博君が、また、1981年度には長尾源一君が選ばれました。同じ目的を達成するため世界各国のJCの結束がJC運動を世界的規模でとらえ、JC運動の発展を図ろうとするものであります。

## 日本青年会議所（日本J C）

第二次世界大戦後、日本の社会は精神的にも物質的にも極度に荒廃した状態であった。現状を一日も早く收拾し、新しい秩序を打ち立てなければならないという声次第に高まって来ました。この時、経済界に活躍している青年達の間に一つのグループ。を作ろうという機運が生まれました。そのグループの目的は、青年がお互いに切磋琢磨し、今後の日本の各界における指導者としての基盤を確立し、青年らしい情熱を燃やして“より良い社会”を着々と実現してゆこうというものであります。

このような趣旨のもとに集まった青年の手によって東京青年会議所（その後商工会議所法の制定により、青年会議所と改称）が1949年9月3日に設立された。これが日本における青年会議所運動の先駆であります。

このような理想主義的な運動は日本各地の指導的的青年層に深い共感を与え、大阪、名古屋、前橋、広島、岡山等に続々と青年会議所が誕生しました。これらJ C相互の連絡のため「全国青年会議所懇談会」が1950年に開催され、次いで翌1951年2月9日に7都市のJ Cを会員とし、全国的な統合体として社団法人日本青年会議所が設立され、通産大臣より認可されました。さらに1951年カナダのモントリオールで、開催された国際青年会議所第6回世界会議で日本J CのJ C I加入が認承されました。日本J C設立以来、現在まで50余年、その間日本J Cは急速な拡大をみました。2021年現在、697余のローカル青年会議所（LocalOrganizationMember 略してLOM）その個人会員数は、6万余名に達しました。

### 日本J Cの組織及び機能

日本青年会議所の機能は各地ローカルJ C（LOM）の活動が円滑活発に行われやすくするため、LOMへの連絡調整の機能をつとめるとともに対外的にはJ C Iの構成メンバー、すなわち国家J C（NationalOrganizationMember 略してNOM）としての機能を果たしております。

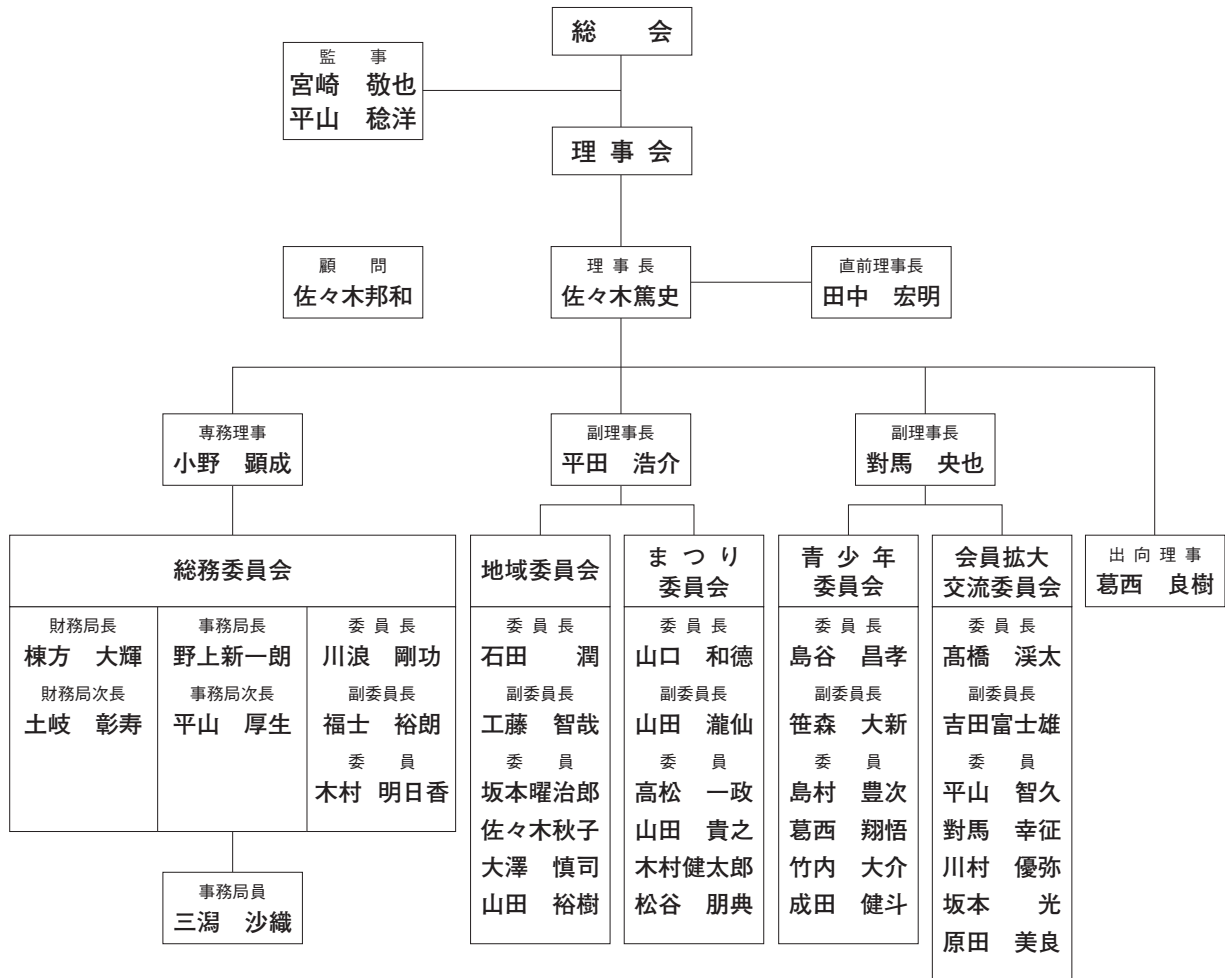
日本J Cの組織は1967年9月の組織改正によって大幅に変更され、縦にはJ C Iの一員でNOMとしてJ C Iの地域担当の副会頭（VPO）の統括下にあります。

国内組織において、各会員会議所は各地区担当常任理事の統括下にあります。直接には各ブロック協議会会長（評議員）につながっており、LOMとして日本J Cの構成員であります。日本J Cには最高の意思決定機関として総会（日本J C定款20～29条）がありますが、その下に評議員会、理事会があって日本J Cの執行機関の機能を果たしています。

## 公益社団法人 五所川原青年会議所 2021年度 理事及び監事

理 事 長	佐々木 篤 史
直 前 理 事 長	田 中 宏 明
顧 問	佐々木 邦 和
専 務 理 事	小 野 顕 成
副 理 事 長	平 田 浩 介
副 理 事 長	對 馬 央 也
出 向 理 事	葛 西 良 樹
総 務 合 同 委 員 長	川 浪 剛 功
地 域 委 員 長	石 田 潤
ま つ り 委 員 長	山 口 和 徳
青 少 年 委 員 長	島 谷 昌 孝
会 員 拡 大 交 流 委 員 会	高 橋 溪 太
事 務 局 長	野 上 新 一 朗
財 務 局 長	棟 方 大 輝
監 事	宮 崎 敬 也
監 事	平 山 稔 洋

公益社団法人 五所川原青年会議所2021年度組織図



## 2021年度 出向者一覧

〈青森ブロック協議会〉

■青森ブロック協議会	会 長	佐々木 邦 和
	運営専務	葛 西 良 樹
■事務局兼財政局	事務局長	對 馬 幸 征
■事務局	次 長	山 田 裕 樹
■総務広報委員会	運営幹事	工 藤 智 哉
	委 員	大 澤 慎 司
■LOM交流支援委員会	委 員	川 村 優 弥
■ブロック連携担当委員会	委 員	福 士 裕 朗
■サマーサミット委員会	委 員	吉 田 富士雄
■総務広報委員会	委 員	大 澤 慎 司
■アカデミー大学	塾 生	山 田 裕 樹
	塾 生	木 村 明日香
	塾 生	土 岐 彰 寿